

272. 浅萌葱(あさもえぎ)V

「浅萌葱」シリーズも手を変え品を変えバージョンV（5）までたどり着いた。毎度説明しているが初見となる皆様に「浅萌葱」の定義についてご説明いたします。主役となる「浅葱」と「萌葱色」の独自・独善的合成語となります。握りであれ、巻物であれ、軍艦であれ形式は問わず「浅葱」を取り入れた「お鮓」を「浅萌葱」と定義しています。



その発想の経緯（いきさつ）は、以下の通り。先ず、「浅葱」の好さ（辛味・風味）を活かしたお鮓ができるいかという動機。次に、右斜め 45° から「ネギトロ」が脳に突き刺さってきたこと。合わせて「浅葱」が店頭（あるところにはある）に並ぶ時季（2月中旬頃から4月末頃）から春の逸品の一つとして取り上げてみたいという願望から開発に至った。また、鮓ネタに「芽ネギ」が存在するが、それとは一線を画したい結論から。

さて、今回「櫻鱒（サクラマス）」との組合せ。結論は、上々。脇役となる「櫻鱒」の主役を凌駕しそうな濃い（強い）キャラを押さえつけることなく、「浅葱」の強い辛味・風味が一体となり相乗効果を発揮、昇華させた。「葉味じやないのか」の声を十億光年彼方へ追いやり、「浅葱」が「浅萌葱」を通して主役として君臨することに相成った。